

子どもの本だな 42

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

## かばくん

岸田 衿子 さく 中谷 千代子 え  
(福音館書店)

動物園の朝、かばくんの元へ男の子とかめくんがやって来ました。「おきてくれ かばくん」声をかけると、かばの親子が起きて来ました。「や、かめくん」「や、かばくん」かばくんとちびのかばくんとかめくんは、一緒に泳いだり話したりしました。「たべてくれ かばくん」男の子がきゃべつを持って来ると、かばくんは大きな口をあけて丸ごと食べました。かばくんたちはお腹がいっぱいになってひと眠り。「さよなら また くるよ」男の子とかめくんが帰った後、動物園に夜が来ました。

長く親しまれている絵本。黒の輪郭に落ち着いた色合いの素朴な絵で、のんびりとしたかばくんたちの動物園での1日を描いています。シンプルでリズムのある言葉は心地良く、子供達と共に楽しめるでしょう。続編に『かばくんのふね』があります。2歳から。

(池之上)

## ミリー・モリー・マンデーのおはなし

ジョイス・L・ブリスリー さく  
上條 由美子 やく 菊池 恭子 え (福音館書店)

ミリー・モリー・マンデーは、お父さんとお母さん、おじいちゃんとおばあちゃん、おじさんとおばさんと一緒に小さな家に住んでいます。ある日、家族全員から次々と用事を頼まれました。「とうさんのこてと、かあさんの卵と、おじいちゃんの糸と、おばあちゃんの毛糸と、おじさんのにわたりのえさと、おばさんの針と」。忘れないように何度もつぶやきながらお店に着きました。ことづけと買い物を済ませてみると、1ペニー銅貨が1枚残っています。ミリー・モリー・マンデーは、何に使うお金だったか一生懸命考え、やっとおばさんの針だったことを思い出しました。('ミリー・モリー・マンデーおつかいにいく')

他にも、はぎれを集めてお母さんにポットカバーを作る話や、友達と留守番中に初めてフライパンで料理をする話など、12編を集めた短編集。幼い子どもの日常の中でのふとした冒険やわくわくする出来事が、子どもの気持ちに沿って穏やかに描かれます。

続編に『ミリー・モリー・マンデーとともだち』があります。読んでもらえば4~5歳から。 (池田)

4月	5月	4・5月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
6日	11日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
13日	18日		岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
20日	25日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

## お知らせ

### 青空リサイクル

図書館で不用になった本や雑誌を無料で提供します。持ち帰り用の袋をご持参ください。

4月29日(土)

10時30分~15時

場所：図書館南側テラス  
リサイクル用の本は、随時補充します。  
雨天の場合は4月30日に延期

# 『旅は驢馬をつれて』

R. L. スティヴンスン 著 小沼 丹 訳

みすず書房 249頁 2004年12月刊 2,400円 (請求記号) Fステ

『宝島』、『ジキル博士とハイド氏』などで知られるロバート・ルイス・スティヴンスン。本書は、二十八歳のスティヴンスンが南仏の山岳地帯を北から南へ踏破した十二日間の旅の記録である。

一八七八年九月、スティヴンスンは一頭のロバに荷を積み、旅に出た。モデスチンと名付けたロバの歩調は徒歩より遅く、間断なく鞭打たねばならない。おまけに積荷がひっくり返り、その大半をスティヴンスンが担ぐことになった。荷物に手の自由を奪われ、モデスチンを追い立てることができず、初日は、目的地から外れた村に泊まることになった。宿屋の亭主にもらった突棒で状況は一変する。チクリと刺すとモデスチンは速駆けを始め、道ははかどり始めたのだ。露営と粗末な宿での宿泊の間には、自身がプロテスタントであるため、恐れを感じながらもトラピスト修道院に宿をとることもあった。朝の二時から勤めを始める修道僧たちを生ける屍とし、わが身の自由に感謝する。

旅の後半は、一八〇年前に新教迫害から起こったカミザールの反乱の地へ入っていく。北部では宗教の違いは政治的立場にも影響をおよぼしているが、反乱の場であった南部では、プロテスタント、カトリックがともに平穏に暮らし、スティヴンスンは驚く。

モデスチンとの道のりは、ユーモラスに綴られ、スティヴンスンの難儀に同情を感じながらも愉快である。また、スティヴンスンが目の前に描き出してくれる山々、田園風景は空気や音、香りに満ちている。特に、露営であるにもかかわらず、宿賃としてお金を落として歩いた松林での一夜は、スティヴンスンが感じた心の穏やかさに反し、五感に響き、もっと旅を続けてほしいと強く思わせる。

(竹内)

## 4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	×	5	6	7	8
9	10	×	12	13	14	15
16	17	×	19	20	21	22
23	24	×	26	27	28	29
30						

## 5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		×	×	3	4	5
7	8	×	10	11	12	13
14	15	×	17	18	19	20
21	22	×	24	25	26	27
28	29	×	31			

- ・カレンダーの×印は休館日。
- ・■は館内整理日。返却のみ受けつけます(10:00~17:00)
- ・開館は10時~18時。金曜日は20時まで開館。

## お知らせ

＜休館日を下記のように変更します＞

- ・火曜日
- ・祝日の翌日
- ・館内整理日…月の末日  
(休館日の場合は前日)

＜図書相互貸借にかかる料金負担についてのお願い＞  
4月1日より、本の取り寄せにかかる送料の片道分を負担していただきます。ただし、兵庫県立図書館の託送便を使用できる場合は、従来通り送料は不要です。

## 地下水

小学生の間は、どこの国の物語かなど気にすることもなく本を選んでいた子どもたちが、中学生になると日本の小説を好んで借りることが多くなるのはなぜだろう。アニメ風のイラストの装丁、SNSの情報発信など若い人たちをひきつける工夫が巧みに巡らされているからか。「もっと面白い本はほかにもあるよ」ともどかしい思いを抱いてきた。

昨年の四月、太子高校の図書委員の先生から、一緒に何かやりましょうと声をかけていただいたことがきっかけで、「13歳からの読書会」を開催することにした。第1回は『運命の騎士』(サトクリフ作)、第2回は『アンナプルナ登頂』(エルゾグ作)。どちらも書架に並んでいるだけでは、なかなか手に取ってもらえないが、読み応えのある作品である。13歳からの読書会と銘打ったものの、実際の参加者は高校生からリタイアされた方まで幅広い世代にわたり、様々な立場から意見が出され充実した会となった。なかでも、高校生たちは、主人公の生き方に自分を重ね、大きな試練を経てなお、よく生きること希求し成長する姿に共感を覚えたようであった。

高校を卒業し太子の図書館から離れて行く彼女たちであるが、また参加したいと言ってくれた。次回に向けて、本の提案もいただき、何にしようかと嬉しい悩みをかかえている。

(片木)

- 開館は 10 時～18 時。
- 金曜日は 20 時まで開館。